

## 第2回北海道150年道民検討会議 議事概要（事務局作成）

日時：平成28年8月8日（金）15:00～16:40  
場所：ホテルポールスター札幌 2F コンチェルト

### 【出席者】

#### <委員>

山口委員長、石森委員、伊藤委員、生方委員、落合委員、加藤委員、菊谷委員、小磯委員、西條委員、佐々木委員、鈴木委員、高橋賢友委員、高橋はるみ委員、高向委員、竹田委員、谷本常務理事【棚野委員代理】、飛田委員、三好委員 計18名

#### <事務局>

（北海道経済連合会）菅原理事・事務局長

（北海道商工会議所連合会）安宅総務担当部長

（北海道）山谷副知事、窪田総合政策部長、平野政策局長、岩崎北海道150年事業準備室長

### 【議事概要】

#### （1）「北海道みらい日誌」について

- ・最優秀賞受賞者からの作品発表及びコメント

#### （2）北海道150年事業基本方針（原案）について（掲載は発言順）

- ・グローバルシチズンという視点は未来の北海道を考えるとときに極めて重要であり、基本姿勢の中に「世界の中の北海道」といったものが必要。
- ・北海道遺産は、2001年に、道民参画で52件選ばれているが、150年事業との関わりの中で、北海道遺産協議会としても新たな事業を進めたい。
- ・（みらい日誌最優秀賞の）3人の考え方を、基本方針の中に盛り込む上で、2つの視点が重要。1つは教育的な視点、もう1つは経済的な視点。北海道150年を契機に、これらの視点を北海道に住む我々自身がしっかりと考え、自ら変化していくことが非常に大事。
- ・経済な視点に関しては、例えば北海道150年記念ファンドを設立して、これから新しい事業を興したいという方々に、資金的バックアップができるような体制を作ることが有意義ではないか。
- ・基本方針の理念にある「北海道の新しい価値、誇るべき価値を共有し」という部分については、方向性としては2点あると思う。1つは、道内の皆さんが道内の良さ、価値を知り合うことが非常に重要。2つ目は、道外の皆さんから見た北海道の良さを知ること。北海道出身者が道外に出て、あらためて北海道の良さを認識する方は多い。そういう方の意見を把握して、どういう点が他エリアに比べて良いのかを認識する必要がある。
- ・（北海道150年は）2年後だが、来年から本当にPRが重要になってくる。道民からの寄附、クラウドファンディングの話も出ているが、北海道から各地に行った方々、海外の方も含めた取組も想定できるのではないか。
- ・松阪市長が（松浦武四郎の）ドラマを作るという新聞記事があったが、みんなで応援していきたい。来年から気運を盛り上げて、大成功となるようにもっていかれたらと思う。
- ・（基本的な考え方の記載順について）アイヌが先ではなくて縄文文化が先の方が良いのではないか。
- ・基本姿勢に、「道民一体」とあるが、この中で「北の大地」という表現が良いと思った。
- ・「交流」というテーマで、北海道の中でお互いを知ることが大事と思うので、「多様性」という中にも、交流という意味も含めて考えてほしい。
- ・みらいワーキングの声を2つ紹介する。1つは、これまでの150年の先人への感謝と敬意を込めて、150年間の歴史というものをしっかり伝えていく役割が我々にあるということ。それが結果的には、この先の50年後、200年にかけての大変貴重な北海道の財産になるという思いの声。もう1点は、我々北海道に関わる者にとって、北海道のことが実はよくわかっていない。足元の北海道を見

つめ直し、理解を深める契機にしていく考え方が大事ということ。

- ・150年事業は、様々な人々を巻き込んで進めていくことが最大のポイント。道庁の事業ということではなくて、道民全てが一緒に取り組んでいく事業である。
- ・地域、空間の視点として、札幌だけで取られるのではなく、北海道の各地でいろいろな形で展開されていく事業であるべき。
- ・151年目からの将来の一步を踏み出すという部分については、将来を担うのは若い子ども達、青少年が中心になるので、国際社会にグローバルな人間をどう育てていくかということも含め、具体的な言葉を盛り込んでいくと良い。
- ・アイヌ文化ありきという考え方ではなくて、新しい価値を追求していくとアイヌ文化に到達するという組み立てもあるのではないか。
- ・150年の企画の中に、「楽しむ」「学ぶ」「体験する」「交流する」という要素を取り入れて、結果として青少年を育むところに持っていくことを期待する。
- ・北海道が150年を迎えることを、テレビ、ラジオ、新聞をはじめ、インターネットなど様々なメディアを活用して、たくさんの人達に伝えていくべき。
- ・今回の企画を通して、道民の100%の方が（松浦）武四郎を知って、武四郎の偉業を大いに称えるところに結び付けて行ってほしい。その時に、縄文文化やアイヌ文化、歴史と共存・共栄してきたところを、強く留めて欲しい。
- ・3つのテーマのうち、150年を振り返って、開拓の礎となったアイヌの方々の歴史や文化、生活を後世に伝えていくことが最も大事。
- ・今後、（松浦武四郎の）ドラマ化が具体的に検討される場合、目玉事業にもなり得る。武四郎の功績を礼賛することも大事ではあるが、当時の北海道の状況やアイヌの方々の生活、苦勞を伝えるようなものが望ましい。
- ・150年を契機にそれを大きな起爆剤として、どのように取り組んでいくかということが一番大事。
- ・資料を読むと、（現行の「新北海道史」は）昭和45年までを対象に昭和56年にできたところ。定期的に作るのが、増補の形も含めて望ましいと思う。これが北海道の基本的な史料になる。
- ・経済界としても、若い人が夢を持って活躍できる社会に向けて、北海道産業の将来像を示すきっかけとなるよう、この事業について前向きに取り組んでいきたい。
- ・「アイヌ文化の発信」は、ぜひ北海道の若い人に対する発信事業であって欲しい。

(以 上)